

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H04559

研究課題名(和文)現代アジアのリプロダクションに関する国際比較研究：ジェンダーの視点から

研究課題名(英文)Gender and Reproduction in Modern Asia: International Comparison

研究代表者

白井 千晶 (Shirai, Chiaki)

静岡大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：50339652

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：2017年4月～2020年3月に、東アジア・東南アジア・南アジアの14ヶ国、日本、大韓民国、中華人民共和国、中華民国(台湾)、フィリピン共和国、インドネシア共和国、ベトナム社会主義共和国、ラオス人民民主共和国、タイ王国、ミャンマー連邦共和国、ブータン王国、ネパール連邦民主共和国、インド、スリランカ民主社会主義共和国の都市と非都市(ないし大都市と非大都市)において、出産を経験した女性と専門家(主に産科・助産の医療者)に対して、インタビュー調査を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アジアは急激な変化の渦中にあり、また、文化的、宗教的、政治的、経済的にも多様である。そのようなアジアの14ヶ国において、共通の質問項目を用いて、不妊治療や生殖技術、避妊や家族計画、妊娠や出生前検査、出産、産後に関するインタビュー調査を実施した。これまでは家族ケアの観点から、子育てや高齢者ケアに関するアジアの比較調査は実施されてきたが、テクノロジーとリプロダクションの観点から妊娠～産後の国際調査が実施されたことはほとんどなく、学術的、社会的意義がある。さらに本研究では、複層的に捉えるために、妊娠・出産の当事者である女性と、専門家としてそれに関わる医療者の双方にインタビューを実施した。

研究成果の概要(英文)：From April 2017 to March 2020, interviews were conducted with experts (mainly obstetrics and midwives) and women who have given birth in 14 countries in East Asia / Southeast Asia / South Asia (Japan, Republic of Korea, People's Republic of China, Republic of China (Taiwan), Republic of the Philippines, Republic of Indonesia, Socialist Republic of Vietnam, Lao People's Democratic Republic, Kingdom of Thailand, the Republic of Union of Myanmar, Kingdom of Bhutan, Federal Democratic Republic of Nepal, India, Democratic Socialist Republic of Sri Lanka) in cities and non-cities (or metropolitan and non-major cities).

研究分野：社会学

キーワード：アジア リプロダクション 妊娠・出産 出生前検査 生殖技術 人工妊娠中絶 家族計画 不妊治療

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

現在、アジアは急激に変貌している。東アジア、東南アジア、北アジア、南アジア、中央アジア、西アジアの6地域から成るアジアには、世界の人口の6割が住み、世界の都市の人口上位8位までがアジアの都市である。

短期間で急激に資本主義化、市場経済化、都市化、中間層の出現、人口構造の変化が起こることは「圧縮された近代 (compressed modernity)」とも呼ばれている (Chang2010=2013)。アジアの近代化は、急激に進むグローバル化、情報化、人口変動という西洋の近代化との諸要素の違いから、西洋とは異なる経路をたどる可能性もあり、家族変動の結果が異なることも予想される (落合 2013)。

リプロダクションに限ってみると、人口政策 (出生抑制政策か出生増加政策か)、国の成長目標における母子保健指標 (母体死亡率、新生児死亡率、乳幼児死亡率、死産率などの低下に関する数値目標、専門家による出産立会率の数値目標など)、その他の健康・疾病指標 (HIV 予防等)、墮胎・人工妊娠中絶に関する法制度、医療や出産に関する制度 (ヘルスセンターなどのシステム、健康保険制度や医療の財源と支払い、自宅出産を禁止しているか否か、助産師が開業できるか、等々)、出産に関する技術や医薬の普及とそれに対する態度 (帝王切開、陣痛誘発剤や促進剤、硬膜外麻酔等々)、生殖技術の許容と普及 (体外受精などの Medically Assisted Reproduction: MAR または Assisted Reproductive Technologies: ART) を許容しているか、第三者が関わる生殖医療 (精子提供、卵子提供、代理出産など Third Party Reproduction) に関する法制度や実情など、各国の状況を分ける要素は様々に存在し、また、この5年、10年で目まぐるしく状況が変化している。

このように政治体制、人口施策、医療供給システム、宗教や文化、家族やジェンダーをめぐる状況が様々なアジアにおいて、身体と次世代育成 (人口の再生産) にかかるリプロダクションはどのような現況にあるか。出生と養育、つまり出産と育児にとどまらない、家族計画、避妊、人工妊娠中絶、不妊治療、生殖技術、出産などのリプロダクション全体の経験や意識を質的、量的に調査し、ジェンダーの観点からアジアの総合的な国際比較研究を捉えようというのが本研究が始まった背景である。

研究代表者や研究チームのメンバーは、これまでの調査研究 (例えばライフストーリー・インタビューや資料分析) によって、女性当事者は人工妊娠中絶後に不妊治療をしたり、出産後に避妊をしたりと、ライフコース全体にわたって、人生の段階や環境によって異なる実践・経験をしていることを明らかにしてきた。しかし現実の生活世界においても研究においても、出産、育児などのステージ、医療、福祉などの分野によってリプロダクションは分断し、家族計画、避妊、人工妊娠中絶、月経、哺乳、生殖技術、養子縁組や里親、などは研究対象として扱われることが少なかった。それは、出生した人口と社会のあり方 (人口の再生産としての育児、教育、労働、介護など) に関心が限定されてきたからだろう。しかし、社会が政治的、経済的文脈においてどのように再生産されているかを明らかにするためには、ジェンダーの視点でリプロダクションの領域全体に関する調査研究が必要である。

先行研究に関して述べると、出産分野に限定すれば欧米には体系的な比較研究があるが、リプロダクション全体ではなく、研究対象地域も欧米のみとなっている。別の研究では、育児、家族と福祉体制に関する比較調査をしているが、リプロダクション領域は含まれていない。本研究メンバー実施の出産分野のアジア比較研究はあるが、サーベイにとどまっている。そうした学術的背景の中で、アジア諸地域のリプロダクションを比較可能な調査で実証することを目指して本研究プロジェクトが発足した。

2. 研究の目的

従来、人口学、家族形成の観点から「出生」「出産」研究に焦点が集中してきたが、不妊治療や生殖技術、避妊や人工妊娠中絶など性と生殖に関わるリプロダクション全体を捉えなければ、女性の身体とジェンダー・ポリティクスを探求できない。本研究はリプロダクションを歴史的文脈、トランスナショナルな相互作用、ローカルな相互作用の観点からそのダイナミズムのありようと要因を探るものである。また、リプロダクションの調査研究範囲には、次世代育成の観点や妊娠・出産によらない親なり (親になること) を含めるために養子縁組や里親を、また血縁、身体観を含めるために第三者が関わる生殖技術、哺乳を、生む / 生まないという統制・選別を含めるために避妊、家族計画、出生前検査、人工妊娠中絶・墮胎を含めた。

3. 研究の方法

本研究が対象にするのは、アジア6地域のうち、東、東南、南アジアの3地域にとどまり、また、3地域のすべての国を対象にできてはいないが、宗教、人口構造や人口政策、経済発展や都市化の度合い、産業、親族・家族システム、福祉や医療体制は非常に多様で、それぞれに急激な変化のさなかにある。

調査は、2017年4月～2020年3月に、東アジア・東南アジア・南アジアの14ヶ国、日本、大韓民国、中華人民共和国、中華民国 (台湾)、フィリピン共和国、インドネシア共和国、ベトナム

ム社会主義共和国、ラオス人民民主共和国、タイ王国、ミャンマー連邦共和国、ブータン王国、ネパール連邦民主共和国、インド、スリランカ民主社会主義共和国において実施した。

ローカルな規範や文化の比較のため、文化の基調となる宗教を考慮し、人口の多くがキリスト教徒であるフィリピン、イスラム教徒であるインドネシアを入れ、儒教文化圏、仏教文化圏と比較できるようにした。例えばフィリピンはキリスト教(特にカソリック)の観点から、インドネシアはイスラム教の観点から、ミャンマーは仏教(主に上座部仏教)の観点から、墮胎・人工妊娠中絶を禁止しているか、非常に限定的である。人口政策、人工妊娠中絶の可能性と、胎児の染色体異常に関する検査の動機は大きく関わっていることが予想される。

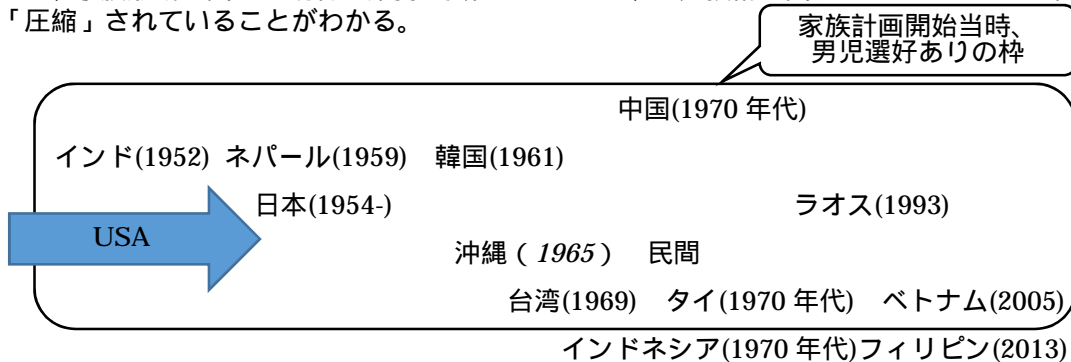
また、文化的文脈と、政治的、歴史的、政策的文脈の比較をするために選択したのが、ラオスとタイとミャンマー、インドとスリランカ、中国と台湾、ネパールとブータンである。

国家のあり方が人口政策の類型を分ける一つの軸になるが、その国家のあり方として、大きく社会主義国と民主主義国がある。調査対象国には、中国、ベトナム、ラオスなど社会主義国を入れた。特に世界最大の人口大国である中国は1970年代から「計画生育」を実施してきて、近年になって高齢化の懸念から第2子の出産を解禁した。ベトナムは現在まで強力に出生抑制政策をとり、第3子の出生には解雇などのペナルティがあったほか(近年緩和を検討)、避妊(家族計画)が無償・安価に入手できる体制を整え、人工妊娠中絶も許容している。

中国と台湾は漢民族で男児選好や出産に関する慣習・規範などは同型性が高い。しかし、日本植民統治および戦後の米国主導の家族計画と医療政策などの文脈や政治経済体制は、中国と台湾は著しく異なっている。その結果として、例えば、出産の近代化に際して出産の専門家は、台湾では男性化され(男性産婦人科医)、中国では女性化された。興味深いことに共通点もあり、産後養生の慣習はともにほぼ温存され、最近では産後の養生が商業化されつつある。文化的同型性、経路依存性と、国家体制や政策・制度、経済水準のダイナミズムを検討するのに中国、台湾は適当である。

国家による人口政策は、トランスナショナルなポリティクスを反映してもいる。トランスナショナルなポリティクスは、歴史的な権力構造だけでなく、経済発展の水準による「指導・供給・キャッチアップ・受容」構造もある。ポスト冷戦、ポストコロナリズムの体制において、「人口爆発」のコントロールのため、発展途上国への「国際協力」という文脈で(例えばODA、グローバルなNGO団体)、人口管理に関する技術提供がおこなわれたり、指針が示されたりすること(例えばWHOの指針)がその例である。したがって、対象国の選定には、経済発展の水準も考慮した(先進国、NIE S、途上国の中でも発展急進国、停滞国)。

他方で「家族計画」の実践は文化的でもある。下図に四角で囲んだ国々は、「家族計画」と「男児選好」が結びついた国・地域である。ベトナムでは男児選好だけでなく「子どもがいること」が何より優先されるため、2015年に代理懐胎が合法化されている。体外受精の成功が1998年であるから、家族形成に関する規範が維持・強化されながら、生殖技術に関するテクノロジーの普及が「圧縮」されていることがわかる。



リプロダクション政策実施の歴史

また、あるテクノロジーやデバイス(モノ)に対する態度は、ローカルな規範や文化に基づいている。ネパールでは避妊目的でピルを服用するのはタブーであるが、儀礼参加のための月経コントロールという文脈では受容される。日本では永久的に生殖能力を絶つ卵管結紮や精管切断・結紮術(「パイプカット」)は、たとえ本人が「生み終わった」と考えていたとしても選択されにくい(むしろ人工妊娠中絶が産産の防止の選択肢だったのは周知の通りである)。中国では不妊手術が優勢である(これは国家政策にもよっている)。どのようなテクノロジーやデバイスがどのような場合に許容されるかは、国の施策や制度の影響を受けると同時に、ジェンダー、家族、身体、生命、科学技術、宗教などに対するローカルな規範に準拠して選択されている。

以上の研究背景や問題意識に基づき、本調査研究では、アジア14ヶ国の専門家(主にリプロダクションに関わる産婦人科医、助産師)と出産経験女性を対象にインタビュー調査を実施した。リプロダクションに関するヒアリングの項目は、妊娠、避妊や家族計画、人工妊娠中絶、妊婦健診・出生前検査、出産、産後、哺乳、不妊への対処、である。第三者が関わる生殖技術や養子縁組、里親への態度、もらい乳の経験や態度、人工妊娠中絶の条件、染色体異常のある胎児や新生児への態度など、遺伝・生命観、身体観、親子・家族観などに広がる質問も含む、共通のインタビュー項目をヒアリングした画期的な調査である。

インタビュー協力者は、14ヶ国で合計268名(参考も含めると275名)に達し、現在、すべてのインタビューについて日本語記録を作成し、回答を項目ごとに切片化してデータが作成されたところである。

調査時期：2017年4月～2020年3月

調査方法：半構造化インタビュー

調査対象：専門家と出産経験女性

リプロダクションを取り巻く多層的な分析水準の必要性(女性/家族/夫婦/パートナー、コミュニティ、国家、トランスナショナル、グローバル、それを横断する専門職集団や企業)の観点から、こうした多層的な力学の中にある女性当事者へのリプロダクション経験調査と、産科医療等専門職(伝統的産婆を含む助産師、医師、その他)および政策作成者への専門職調査の2本立てで実施した。専門職調査は、コミュニティ調査(地域社会の母子保健ボランティアや助け合いによる出産介助)を含む場合がある。各国専門家5人以上、女性10人以上のインタビューを実施し、翻訳した(ないし通訳の日本語訳を書き取った)。

調査地は、1国で2カ所(以上)原則的に都市と非都市を選定した。2カ所にしても無作為抽出のような対象(サンプル)の代表性が得られるわけではないが、アジア諸国の多くは都市と非都市の違いが大きいことがあり、できるだけ地域差に目配りできることを目指したためである。女性調査と専門職調査は同一地域で実施した。インタビューの依頼先については、「できるだけその国・地域の現状に即して対象者を選定する」ことを念頭に置いた。例えば、学歴、職業や収入、宗教、出産経験などが「国・地域の現状に即した」バリエーションになるよう配慮して依頼した。

(1)女性のリプロダクション経験調査

対象女性は、出産経験が記憶に新しいよう、末子が10歳以下という条件付けをした。ただし、比較、参考のために、末子が11歳以上である女性や、出産経験なく育児をしている女性(養子縁組等)にも可能な限りインタビューを実施した。宗教や職業、家族構成などの基本属性のほか、リプロダクション下位領域(避妊、家族計画、人工妊娠中絶、妊娠、妊婦健診と出生前検査、出産、産後、哺育、不妊治療、第三者が関わる生殖技術、養子縁組や里親、胎児や出生児の障害)に関する経験と意識・態度について、共通の構造的なインタビュー項目を設計した。

(2)専門職調査(コミュニティ調査含む)

助産師(伝統的産婆を含む)や医師などの専門職に対し、資格教育、職業キャリア、職業経験、上記リプロダクション下位領域に関する状況、意識や態度に関するインタビュー調査を実施した。必要に応じて母子保健行政、政策立案実施者、NGOスタッフを含めた。同時に母子健康手帳などの資料提供を依頼した。

倫理的配慮

静岡大学ヒトを対象とする研究に関する倫理審査を受審し承認を得て実施した(17-4、17-38)。

表1 研究チームと担当(所属と職位は研究開始時と終了時)(敬称略・五十音順)

氏名	所属と職位	担当国
小浜 正子	日本大学, 文理学部, 教授	中国、台湾
澤田 佳世	沖縄国際大学, 総合文化学部, 教授 / 奈良女子大学, 生活環境科学系, 准教授	日本
白井 千晶	静岡大学, 人文社会科学部, 教授	フィリピン、ベトナム、ミャンマー
嶋澤 恭子	神戸市看護大学, 看護学部, 准教授	ラオス、タイ
田間 泰子	大阪府立大学, 人間社会システム科学研究科, 教授	日本
幅崎 麻紀子	埼玉大学, 研究機構, 准教授	ブータン、ネパール
洪 賢秀	東京大学, 医科学研究所, 特任助教 / 明治学院大学, 社会学部, 研究員	韓国
松尾 瑞穂	国立民族学博物館, 超域フィールド科学研究部, 准教授	インド、スリランカ
松岡 悦子	奈良女子大学, 生活環境科学系, 教授 / 奈良女子大学, アジア・ジェンダー文化学研究センター, 協力研究員	インドネシア
姚 毅	東京大学, 非常勤講師	中国、台湾

4. 研究成果

専門家、女性に対するインタビュー数は下表の通りで、専門家104名(そのほかに参考1名)、女性164名(そのほか条件に該当しないが参考にインタビューした女性6名)の合計268名に

インタビューを実施した（参考も含めると 275 名）。

表2 インタビュー数

	計	日本	韓国	中国	台湾	フィリピン	インドネシア	ベトナム
専門家	104(1)	6	6	7	6(1)	7	6	21
女性	164(+6)	12	12	10	10(2)	12(2)	10	16(2)

	ラオス	タイ	ミャンマー	ブータン	ネパール	インド	スリランカ
専門家	6	5	12	5	5	6	6
女性	12	10	15	10	10	15	10

注1：括弧内の数字は参考インタビューの数で、インタビューの外数。

これまで欧米・オセアニアのマタニティケア・システムや、医療システム、避妊や家族計画、生殖技術、養子や里親制度が紹介されたり、日本と比較されることはあったが、アジアのそれが体系的に調査研究されることはなかった。例えば出産に関する制度として、村・区に設置された一次医療を担うヘルスセンターに総合医や助産師が公務員として配置され、（ほぼ）無料で出産する体制の国もあれば、日本のように、病院、クリニック、助産所などが自由に選択できる国もある。助産師が看護師資格をもっていない国や、開業の規定がない・みられない国もあれば、非都市部のヘルスセンターで公務員として助産を扱う助産師がほとんどで病院勤務がみられない国もある。自宅出産が禁止されている国・地域や、出産の施設化を推し進める国・地域もあれば、医療的介入を最小限にしたり、「自然出産」を見直そうとしている国・地域もある。無料、公費の国もあれば、私費、自由診療の国もある。また、専門職の政策にもトランスナショナルなポリティクスが介在している。植民地下の日本と韓国・台湾、戦後日本と米国がそうであるが、ネパールとブータンもそうである。ブータンは助産師の研修をネパールでさせており、現在強い影響を受けている。

妊婦健診や出生前検査についてみると、超音波検査、染色体異常に関する出生前検査（母体血清マーカー、NIPT、羊水検査）胎児精密検査には差があった。誰が妊婦健診や検査をおこなうかについても、産婦人科医師、超音波検査専門医（放射線科医師）、助産師、一般医（総合医）など様々で、出産準備教室の有無についても同様である。

出産についてみると、帝王切開率が高い国、硬膜外麻酔の使用が一般的である国もある。医療施設への入院をしないか短い国もある。産後の早期接触（カンガルーケア）母乳哺育に熱心な国もあれば、そうでない国もある。陣痛室のベッドにシーツや布団があるか、夫や子どもがいるか、食事の提供があるか、入院中に家族が世話をするのか、別料金で雇ったヘルパーが世話をするのか、医薬品や検査は別料金で支払ったら提供されるか、なども様々で、もちろん、それらのバリエーションがあるか（選択できるか）どうかも、様々だ。

産後については、産後に特別な期間を過ごすか、胎盤を持ち帰って埋めるか医療廃棄物として処理するか、もらい乳をするか、新生児の世話は誰がするか、おおよそいつまで授乳するかなど様々だった。避妊、家族計画についても、その国・地域で入手可能か、ヘルスセンターや薬局で容易に入手できるか、無料で支給されるか、等の法制度や環境によって、ピル、注射、インプラント（皮下埋め込み）コンドーム、避妊薬（アフターピル）卵管結紮、精管結紮、伝統的方法（膣外射精、リズム法、授乳）などの使用が多様だった。出生抑制のために国や自治体が強力に提供しているかどうかも様々であり、また、未婚者の性行動が抑制される国・地域もある。

墮胎・人工妊娠中絶について、法律で禁止されているか、どのような条件付けで罪に問われないか、誰がどのように実施しているかなどの法制度は、人びとの意識や行動を規定する要因の一つだが、宗教、パートナーとの話し合い、異文化にふれているか（海外渡航歴等）などその他の属性や経歴などによっても異なっていることがあった。

出産前に胎児（ないし受精卵等）を検査する出生前検査については、超音波検査がほとんど使用されない地域もあれば、染色体異常に関する検査に公費が投じられたり、標準的な検査に組み込まれている地域もあった。とくに胎児の障がいに関する出生前検査の実施状況は、人工妊娠中絶の可否だけでなく、障がいに対する考えや、ケア・福祉の状況によっても違いがありそうだ。

子どもが生まれないうちの対処について、不妊に関する検査（経膈超音波検査、子宮卵管造影、精液検査など）が一般的でない地域、人工授精が実施されていない、体外受精の技術者（胚培養士等）がいない、培養装置がない地域もあった。そのような地域では、富裕層は海外に渡航し、そうでなければ不妊治療はおこなわない。そもそも結婚が若年で、不妊が問題化していない地域もあった。きょうだいの子どもを共同養育するため、自身に生まれないうちが問題として認識されない地域、インフォーマル/フォーマルな養取りがある地域もあった。宗教上の理由から、体外受精が「生命操作」として認められにくい国もあった。精子提供や卵子提供について、近親婚回避から匿名の第三者を好むところもあれば、親族を好む考えもある。

各国のインタビューの概要については、報告書を刊行した。ジェンダー、グローバル化からトランスナショナルリティ、国家、コミュニティ、家族・夫婦・パートナーへと連続するローカリティ、それらと専門家集団のダイナミズム、およびエージェンシーとしての女性の実践の多様性について、今後、詳細な分析を進め、成果を公開する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 18件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 白井千晶	4. 巻 70(2)
2. 論文標題 アジアにおける出生前検査と障がい観 - ベトナム、ミャンマー、フィリピン調査より	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『人文論集』	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.14945/00027095	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 白井千晶	4. 巻 17(1)
2. 論文標題 不妊治療後の妊娠・出産・育児：社会学の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本生殖看護学会誌』	6. 最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 白井千晶	4. 巻 70(1)
2. 論文標題 養子縁組の出自を知る権利および捜索・再会・交流をめぐる現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『人文論集』	6. 最初と最後の頁 A65-A80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.14945/00026759	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 白井千晶	4. 巻 13 (2)
2. 論文標題 Genetic Ties and Affinity: Longitudinal Interviews on Two Mothers' Experiences of Egg Donation in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 East Asian Science, Technology and Society (2019)	6. 最初と最後の頁 299-315
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1215/18752160-6995912	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 幅崎麻紀子、庄司一子	4. 巻 7
2. 論文標題 高等学校における「日本語指導が必要な生徒」の教育の課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 共生教育学研究	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 姚 毅	4. 巻 28
2. 論文標題 『上海婦女』の希求と苦悩 : 「家事顧問」コーナーの変遷を手がかりに (『上海婦女』特集)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国女性史研究	6. 最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井千晶	4. 巻 36(1)
2. 論文標題 生まれる子どもは社会の子ども ~ 社会で子どもを育てる ~	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 思春期学	6. 最初と最後の頁 55-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井千晶	4. 巻 8
2. 論文標題 ダウン症の子を養子縁組する - 不可視化された「育てられない子ども」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 支援	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井千晶	4. 巻 1
2. 論文標題 「打ち明ける」-リプロダクションの構築主義的ライフストーリー・インタビュー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現象学と社会科学	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井千晶	4. 巻 69(1)
2. 論文標題 卵子提供で親になった人のピア・サポートグループからみえる当事者のニーズと今後の課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文論集	6. 最初と最後の頁 43-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.14945/00025662	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大和田裕美、白井千晶	4. 巻 69(1)
2. 論文標題 医師の質問への応答としてなされる女性による問題提示 - 妊婦健診場面の観察から -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文論集	6. 最初と最後の頁 59-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.14945/00025663	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 白井千晶	4. 巻 61
2. 論文標題 法令概説「民間あっせん機関による養子縁組のあっせんに係る児童の保護等に関する法律」ほか法令概説	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新しい家族	6. 最初と最後の頁 130-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井千晶	4. 巻 33
2. 論文標題 ダウン症を事由にした養子縁組の仲介・支援・決定の実践について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会と倫理	6. 最初と最後の頁 119-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 白井千晶	4. 巻 69(2)
2. 論文標題 児童養護施設における性的マイノリティ (LGBT) 児童対応調査 (ヒアリング調査) 結果 - インセスト・タブーと隠れたカリキュラム -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文論集	6. 最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.14945/00026267	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井千晶	4. 巻 4(2)
2. 論文標題 卵子提供で母になった人の告知に関する態度と経験：縦断的インタビュー調査から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本生殖心理学会誌	6. 最初と最後の頁 26-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井千晶	4. 巻 9
2. 論文標題 社会的養護とみんなで子育て - フォスターから見える子育てのこれから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子育て研究	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小浜 正子	4. 巻 7
2. 論文標題 中国研究のジェンダー主流化へ向けて (特集 百家争鳴の中国近現代史研究)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 研究中国	6. 最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松尾瑞穂	4. 巻 83(4)
2. 論文標題 書評 中川加奈子著『ネパールでカーストを生きぬく：供犠と肉売りを担う人びとの民族誌』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 656-659
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡悦子	4. 巻 65(2)
2. 論文標題 リプロダクションとアジアの近代化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 家政学研究	6. 最初と最後の頁 41-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡 悦子、安、 諸 昭喜、 神谷 摂子	4. 巻 72(10)
2. 論文標題 アジアの新しい風：インドネシア、韓国、中国の自然分娩の動き	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 助産雑誌	6. 最初と最後の頁 790-795
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井 千晶	4. 巻 68(1)
2. 論文標題 若年女性の危機的妊娠の相談・支援の現状について - 日本、アメリカ、韓国調査から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人文論集	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.14945/00010415	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 白井 千晶	4. 巻 22(8)
2. 論文標題 卵子の提供を受けて母親になるということ - 高齢妊娠女性への聞き取り調査から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 30-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.5363/tits.22.8_30	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 白井 千晶	4. 巻 28(1)
2. 論文標題 「リプロダクションの経験と保健医療」総説 : 卵子提供を事例に (特集 リプロダクションの経験と保健医療)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井 千晶	4. 巻 60
2. 論文標題 【新法】民間あっせん機関による養子縁組あっせんに係る児童の保護に関する法律 - その制定をめぐる動きと制定法の全条文の紹介 (菊池緑・白井千晶)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新しい家族	6. 最初と最後の頁 115-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤めぐみ・岩本健良・白井千晶・渡辺大輔	4. 巻 83
2. 論文標題 データを読む「児童養護施設における性的マイノリティ（LGBT）児童の対応に関する調査	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 82-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井 千晶	4. 巻 68(2)
2. 論文標題 児童養護施設における性的マイノリティの子どもへの職員の対応について：児童養護施設LGBT児童対応調査の結果から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人文論集	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://doi.org/10.14945/00024541	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 白井 千晶	4. 巻 116
2. 論文標題 社会的養護と子どもの法的地位の脆弱性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 THINK	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 嶋澤恭子	4. 巻 35(4)
2. 論文標題 ラオスにおける思春期のリプロダクティブ・ヘルス	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 思春期学	6. 最初と最後の頁 364-366
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小浜正子	4. 巻 16
2. 論文標題 「『官商快覧』から『国民快覧』へ - 中国近代のマニュアルブック」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 (学習院大学外国語教育研究センター) 『言語・文化・社会』	6. 最初と最後の頁 45-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小浜正子	4. 巻 22
2. 論文標題 「少子社会、あるいは「卵子の老化」の何が問題なのか？」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『学術の動向』	6. 最初と最後の頁 36-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.5363/tits.22.8_36	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小浜 正子	4. 巻 14
2. 論文標題 高校歴史教育改革とジェンダー主流化 (特集 ジェンダー史が拓く歴史教育)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ジェンダー史学	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計49件(うち招待講演 12件/うち国際学会 15件)

1. 発表者名 小浜正子
2. 発表標題 中国の人口政策
3. 学会等名 比較家族史学会第63回春季研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井千晶
2. 発表標題 「家族」をめぐる挑戦：卵子提供における家族の選択と拡大
3. 学会等名 日本生殖心理学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白井千晶
2. 発表標題 がん・生殖医療と福祉の勉強会の報告
3. 学会等名 日本がん・生殖医療学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白井千晶編、小浜正子、澤田佳世、嶋澤恭子、田間泰子、幅崎 麻紀子、洪賢秀、松尾瑞穂、松岡悦子、姚 毅
2. 発表標題 各国の調査報告
3. 学会等名 現代アジアのリプロダクション調査報告ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井千晶
2. 発表標題 卵子を選ぶ：卵子提供にみる選択原理と近代家族規範
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井千晶
2. 発表標題 日本の子産み、子育てについての変遷と課題
3. 学会等名 しずおか女性の会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井千晶
2. 発表標題 シンポジウム「不妊治療後の妊娠・出産・育児を支える」
3. 学会等名 日本生殖看護学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 幅崎麻紀子
2. 発表標題 Women's Choice within the Context of Fertility Decline: A Study of Reproductive Praxis in Contemporary Nepal
3. 学会等名 INDAS international symposium "Life and Death in Contemporary South Asia"（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 幅崎麻紀子、庄司一子
2. 発表標題 How do Japanese school teachers face educational difficulties in transition to Multicultural Symbiotic Societies?
3. 学会等名 41th Annual Conference of the International School Psychology Association（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 幅崎麻紀子
2. 発表標題 埼玉大学 ダイバーシティ研究環境実現に向けての取組と成果 (埼玉大学男女共同参画室)
3. 学会等名 第17回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾瑞穂
2. 発表標題 Living with bodily contingency: Pregnancy Loss among childless women in West India
3. 学会等名 INDAS international symposium "Life and Death in Contemporary South Asia" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾瑞穂
2. 発表標題 Blood and Egg: Making relatedness in third-party assisted reproductive technologies (ARTs) in India
3. 学会等名 XI AFIN International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾瑞穂
2. 発表標題 The body in difference: 'naturalisation' of the communal difference in India
3. 学会等名 日本南アジア学会第32回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾瑞穂
2. 発表標題 Sociocultural Practices Influencing the Medical Termination of Pregnancy in India
3. 学会等名 第71回日本人口学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾瑞穂
2. 発表標題 身体物質のやり取りから見えるもの サブスタンス研究の射程
3. 学会等名 日本文化人類学会京都人類学研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 MDG5の達成とリプロダクティブ・ヘルスーインドネシアの事例から
3. 学会等名 国際ジェンダー学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 バングラデシュ農村におけるリプロダクションの変容と女性の健康
3. 学会等名 第9回家族社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 Impact of Reproductive Health Policies on Women's Health: MDG 5 and BPJS
3. 学会等名 Gadjah Mada University PSKK (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 バングラデシュ農村における妊娠・出産経験の変容
3. 学会等名 第34回国際保健医療学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 洪賢秀
2. 発表標題 Experiences and Perceptions of Prenatal Testing in East Asia : from a Gender-based Perspective
3. 学会等名 Society for Social Studies of Science (4S) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井千晶
2. 発表標題 日本における危機的妊娠の相談について : Counseling and Support for Crisis Pregnancy in Japan
3. 学会等名 第14回アジアヘルスプロモーション会議 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井千晶
2. 発表標題 写真展を通じた多様な家族像の提示～写真展「フォスター」の試み：Various Parents and Children, Various Families: Photo Exhibition Foster
3. 学会等名 第14回アジアヘルスプロモーション会議（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井千晶
2. 発表標題 藁の上からの養子：産婆による仲介ケースからみた養育者の決定
3. 学会等名 日本人口学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井千晶
2. 発表標題 出生前検査と子どもの障害を事由にした養子縁組
3. 学会等名 南山大学社会倫理研究所（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井千晶
2. 発表標題 Biological Clock and Social Clock Ticking in the Egg Donation in Japan
3. 学会等名 REFRAMING THE BIOLOGICAL CLOCK: INDIAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY HYDERABAD（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井 千晶
2. 発表標題 ラウンドテーブル企画者・代表「リプロダクションの経験と保健医療」
3. 学会等名 日本保健医療社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井 千晶
2. 発表標題 卵子提供で母親になった女性の意識変化のプロセス 追跡的インタビュー 2例の分析から
3. 学会等名 日本保健医療社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井 千晶
2. 発表標題 ワークショップ「The Eve of the Revolution～2027年100周年へ」
3. 学会等名 第73回日本助産師学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井 千晶
2. 発表標題 企画セッション「出生の生物人口学」
3. 学会等名 第69回日本人口学会研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井 千晶
2. 発表標題 生まれる子どもは社会の子ども～社会で子どもを育てる～（シンポジウム「若年妊娠への支援を考える」）
3. 学会等名 日本思春期学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井 千晶
2. 発表標題 児童養護施設における性的マイノリティの子どもへの職員の対応について 児童養護施設LGBT児童対応調査の結果から（2）
3. 学会等名 第90回日本社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kouhei Sugimoto, Rie Anami, Eriko Shiraishi, Yodo Sugisita, Chiaki Shirai, Nao Suzuki
2. 発表標題 A questionnaire study of awareness of the foster care system and adoption for the young cancer survivor in Japan
3. 学会等名 Annual Oncofertility Consortium Conference
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井 千晶
2. 発表標題 里親・養親ってどんな人？ 知ることから始めよう
3. 学会等名 日本がん・生殖医療学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井 千晶
2. 発表標題 がん経験者と養子縁組・里親制度をつなぐために
3. 学会等名 日本がん・生殖医療学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井 千晶
2. 発表標題 黨の上からの養子：子どもの養育決定のエージェンシーとしての産婆を中心に
3. 学会等名 第69回歴史人口学セミナー研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Makiko HABAZAKI
2. 発表標題 Immigrant children's and parents' praxis to adjust foreign school culture: A case study of Nepali Immigrants in Japan
3. 学会等名 39th Annual Conference of the International School Psychology Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 M.HABAZAKI, K.YURA
2. 発表標題 Challenges for Diversity Environment in the University of Electro-Communications
3. 学会等名 The Irago Conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 M.HABAZAKI, K.YURA
2. 発表標題 Benefits and Challenges for Diversity at the University of Electro-Communications
3. 学会等名 ジェンダーサミット 10 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松尾瑞穂
2. 発表標題 高カースト女性にとっての公的世界とその経験 ポスト独立期インド社会の変化
3. 学会等名 現代南アジア地域研究「社会変動と親密圏」第一回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Matsuo Mizuho
2. 発表標題 The Formation of class in Modern Maharashtra: Birth control movements and the emergence of new middle class
3. 学会等名 JSPS bilateral workshop on Caste Formation in Modern Maharashtra (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 H.Hong, Y.Kambara, A. Nagai, Y.Inoue
2. 発表標題 Review of discussions of the ELSI committee for 15 years in the BioBank Japan
3. 学会等名 18th Asian Bioethics Conference
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 S.Okubo, H.Hong
2. 発表標題 Ethical Issues Surrounding Non-Invasive Prenatal Testing in Japan: a Content Analysis of Newspapers.
3. 学会等名 18th Asian Bioethics Conference
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 洪賢秀
2. 発表標題 韓国の「ホスピス・緩和医療の利用および終末期患者の延命医療の決定に関する法律」と社会的諸課題
3. 学会等名 日本生命倫理学会第29回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 Emphasis on Postpartum Period in Japan. Panel titled "Growing Attention to Postnatal Period in East Asia.
3. 学会等名 The East Asian Anthropological Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 「グローバルヘルスとアジアの出産」
3. 学会等名 『全南大学校日本文化研究センター 第12回国際学術シンポジウム』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 「地域に根付く伝統や風習が健康格差に与える影響 - リプロダクティブ・ヘルスを例に - 」
3. 学会等名 『グローバルヘルス合同大会』（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 「アジアの出産を見る - ジェンダーの視点から」
3. 学会等名 『東北並びに女性視角研究検討会』（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 「戦前の産婆たち - 柘植アイ、岩崎なお」
3. 学会等名 東京都助産師会館財団創立85周年
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 「産婆の歴史への接近 - 文化人類学の視点から」
3. 学会等名 『母子と助産師の日イベント 産婆・助産婦の歴史への接近』
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 白井千晶編、小浜正子、澤田佳世、嶋澤恭子、田間泰子、幅崎 麻紀子、洪賢秀、松尾瑞穂、松岡悦子、姚毅	4. 発行年 2020年
2. 出版社 報告書自主出版	5. 総ページ数 333
3. 書名 現代アジアのリプロダクションに関する国際比較研究：ジェンダーの視点から	

1. 著者名 杉本良男、松尾瑞穂、望月哲男、小林宏至、井田克征、高橋沙奈美、韓敏、前島訓子、井上岳彦、河合洋尚、櫻間瑛、川口幸大、	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 352
3. 書名 聖地のポリティクス ユーラシア地域大国の比較から	

1. 著者名 石坂晋哉、宇根義巳、舟橋健太、井田克征、松尾瑞穂、茶谷智之、山本達也、和田一哉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 304
3. 書名 ようこそ南アジア世界へ 地域研究のすすめ	

1. 著者名 川田牧人、近藤英俊、中村潔、松尾瑞穂、藤本透子、島園陽介、田中正隆、浜田明範、片岡樹、白川千尋、黒川正剛、津村文彦、飯田卓、中川敏、飯田淳子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 480
3. 書名 現代世界の呪術 文化人類学的探究	

1. 著者名 小浜正子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 391
3. 書名 一人っ子政策と中国社会	

1. 著者名 小島宏、廣嶋清志編著、小浜正子、澤田佳世、田間泰子、	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 317
3. 書名 人口政策の比較史 - せめぎあう家族と行政	

1. 著者名 田間泰子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 258
3. 書名 リスク社会の家族変動	

1. 著者名 西野理子、米村千代、田間泰子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 183
3. 書名 よくわかる家族社会学	

1. 著者名 歴史学研究会、田間泰子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 332
3. 書名 歴史を未来につなぐ: 「3・11からの歴史学」の射程	

1. 著者名 白井千晶	4. 発行年 2018年
2. 出版社 (報告書・自主出版)	5. 総ページ数 144
3. 書名 卵子の提供を受けて母親になるということ	

1. 著者名 白井千晶	4. 発行年 2019年
2. 出版社 生活書院	5. 総ページ数 199
3. 書名 フォスター - 里親家庭・養子縁組家庭・ファミリーホームと社会的養育	

1. 著者名 白井千晶、静岡大学人文社会科学部・地域創造学環編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 268
3. 書名 大学的静岡ガイド	

1. 著者名 奈良女子大学生生活文化学研究会 編、松岡悦子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 敬文舎	5. 総ページ数 351
3. 書名 ジェンダーで問い直す暮らしと文化 : 新しい生活文化学への挑戦 (奈良女子大学叢書 ; 4)	

1. 著者名 粟屋利江、井上貴子編著、松尾瑞穂	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 333
3. 書名 インドジェンダー研究ハンドブック	

1. 著者名 村上薫編著、松尾瑞穂	4. 発行年 2018年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 245
3. 書名 不妊治療の時代の中東 家族をつくる、家族を生きる	

1. 著者名 インド文化事典編集委員会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 770
3. 書名 インド文化事典	

1. 著者名 下倉渉、佐々木愛、高嶋航、江上幸子編、小浜正子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 486
3. 書名 中国ジェンダー史研究入門	

1. 著者名 Etsuko Matsuoka	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Waveland Press	5. 総ページ数 438
3. 書名 In Ways of Knowing about Birth. Selected writings	

1. 著者名 山崎真紀子、石川照子、須藤瑞代、藤井敦子、姚毅	4. 発行年 2018年
2. 出版社 研文出版	5. 総ページ数 461
3. 書名 女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本：一九二六-二七年の中国旅行日記を中心に	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>サイト：現代アジアのリプロダクションに関する国際比較研究 http://genderreproduction.seesaa.net/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田間 泰子 (Tama Yasuko) (00222125)	大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・教授 (24403)	
研究分担者	幅崎 麻紀子 (Habazaki Makiko) (00401430)	埼玉大学・研究機構・准教授 (12401)	
研究分担者	松岡 悦子 (Matsuoka Etsuko) (10183948)	奈良女子大学・アジア・ジェンダー文化学研究センター・協力研究員 (14602)	
研究分担者	小浜 正子 (Kohama Masako) (10304560)	日本大学・文理学部・教授 (32665)	
研究分担者	澤田 佳世 (Sawada kayo) (60454998)	奈良女子大学・生活環境科学系・准教授 (14602)	
研究分担者	洪 賢秀 (Hong Hyunsoo) (70313400)	明治学院大学・社会学部・研究員 (32683)	
研究分担者	松尾 瑞穂 (Matsuo Mizuho) (80583608)	国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授 (64401)	
研究分担者	嶋澤 恭子 (Shimazawa Kyoko) (90381920)	神戸市看護大学・看護学部・准教授 (24505)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	姚 毅 (Yao Yi)	東京大学・教養学部・非常勤講師	